

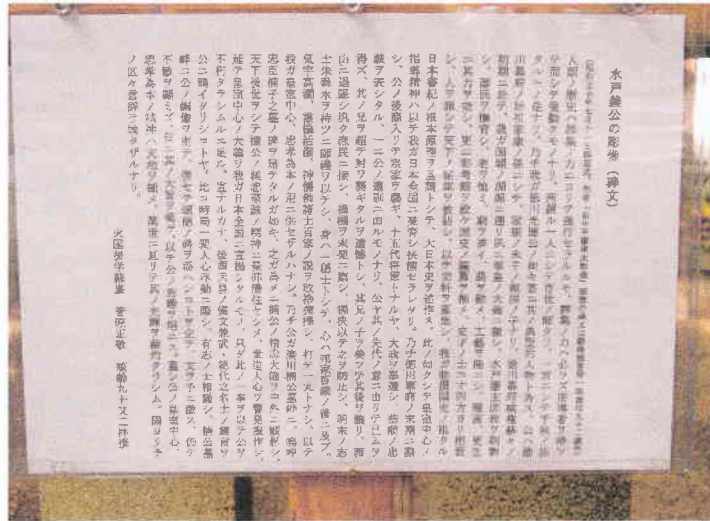
24 徳川光圀(水戸黄門)像／湊川神社

神戸市中央区多聞通3-1-1

- ▶ 水戸黄門で有名な徳川光圀の銅像が楠木正成墓所の傍らにあります。光圀は水戸藩主を辞してから西山荘に隠居し、「大日本史」の編纂を行いました。楠木正成の墓碑「嗚呼忠臣楠子之墓」を建立した功績を追慕して、昭和30年(1955)7月に銅像が完成しました。



徳川光圀像



25 坂本龍馬訪問の地／楠木正成墓所

神戸市中央区多聞通3-1-1

- ▶ 坂本龍馬が詠んだ歌の中に次の句があります。

湊川にて

月と日のむかしを しのぶみなと川
流れて清き 菊の下水

宮地佐一郎氏の著作「龍馬の手紙」(講談社学術文庫、PHP文庫)で、次のとおり解説されています。

「湊川にて」の歌は、龍馬が「新葉集」を愛読していた痕跡をよく残していると思います。菊の下水は「菊水」で、つまり楠木正成の家紋を踏まえた歌なんですね。正成は湊川の戦いで戦死します。湊川の水が流れて清い菊の下水になっていると言っている。歌のころは正成の残した志が今もなお清く流れている、それは湊川に流れているということだけでなく、自分の心の中にも流れているということになると思います。だからこの歌は叙景というよりはむしろ龍馬自身の志を述べた歌だと思います。

勝 海舟日記では、文久2年(1862)12月25日に

「楠公の墓を拝す」と記してあります。

その4日後、12月29日

「千葉十(重)太郎来る。坂下(本)龍馬子来る。京師の事を聞く。」とあります。

26 孫文像／大倉山公園

神戸市中央区楠町7-4

- ▶ 「中国の国父」と慕われ中国辛亥革命を指導した革命家孫文の胸像です。大正12年(1923)、来日していた孫文は、馮玉祥の招請で北京へ向かう途中、11月24日神戸に立ち寄りました。11月28日、孫文は神戸高等女学校講堂で「大アジア主義」の講演を行い、西洋覇道ではなく東方王道の干城となることを訴えました。



27 伊藤博文像跡台座／大倉山公園

神戸市中央区楠町7-4

- ▶ 明治37年(1904)、湊川神社境内に伊藤博文像が建てられたものの、すぐに姿を消してしまい、その後は建てられないままでした。
明治42年(1909)10月26日、伊藤がハルビン駅で暗殺されると、親交のあった神田兵右衛門等が主唱し、再度、神戸に伊藤博文の銅像を建てるのが計画されました。
これを聞いた政商大倉喜八郎は、自分の神戸別荘地を寄付しました。
明治44年(1911)12月26日、銅像が完成され、別荘地が大倉山公園として開園します。
さて、伊藤博文像の台座には、階段状ピラミッドのモチーフが使われています。
伊藤が初代内閣総理大臣であったことから、このモチーフは国会議事堂の屋根の形に採用されることにもなります。
この伊藤博文の銅像も、戦時中の金属供出のため現在は姿を消しています。
銅像の台座跡だけが残っており、神戸市では伊藤博文像の再建の声も上がっているようです。



伊藤博文像跡台座



国会議事堂



伊藤博文像(古写真)

28 大倉喜八郎別荘跡／大倉山公園

神戸市中央区楠町7-4

- ▶ 大倉喜八郎は、天保8年(1837)9月24日に生まれ、昭和3年(1928)4月22日に他界しました。
日本の中堅財閥である大倉財閥の設立者で、明治・大正期の実業界を牽引しました。
庶民からは“死の商人”と忌み嫌われましたが、公共事業や教育事業には惜しみなく私財を投じています。
鹿鳴館、帝国ホテル、帝国劇場などを渋沢栄一らと共に、設立したことで有名です。
現東京経済大学の前身である大倉商業学校の創設者でもあります。
また、喜八郎の息子 大倉喜七郎は、ホテルオークラの創始者です。



大倉喜八郎

29 坂本龍馬と神戸海軍操練所記念碑／大倉山公園

神戸市中央区楠町7-4

- ▶ 神戸にある全国各地の県人会が、故郷の樹木を植えたり、石碑を建てたりしています。高知県のコーナーでは「坂本龍馬と神戸海軍操練所記念碑」が建てられています。



30 富士山之碑／大倉山公園

神戸市中央区楠町7-4

- ▶ No.29の関連で珍しい碑をご紹介します。静岡県のコーナーに立てられている「富士山之碑」です。



31 第二次長州征伐幕府軍駐屯の地／八王寺

神戸市兵庫区羽板通2-1

- ▶ 慶応元年(1865)、長州藩内で高杉晋作ら討幕派が保守派をクーデターにより倒幕派政権を成立させたことにより、第2次長州征伐が起ります。第14代将軍徳川家茂も大坂城に入城し指揮を取りますが、薩摩藩をはじめ各藩は軍を派遣することに消極的で士気が上がりませんでした。先発隊を長州へ派遣し、後続軍を兵庫柳原にある八王寺に屯所を設け、前線の状況を窺いました。しかし、入手する情報は不利なものばかりで、軍の統率が乱れ、町民に対して兵が暴徒化しました。暴行迫害の記録がいくつか残されています。



32 柳原惣門跡

神戸市兵庫区羽板通2-1

- ▶ 柳原蛭子神社と福海寺の間に西国街道がありました。この位置から兵庫の町に入るといふ意味で惣門(柳原惣門)がありました。西の柳原惣門に対して、東は湊口惣門がありました。



33 足利尊氏ゆかりの寺／福海寺

神戸市兵庫区西柳原町10-10

- ▶ 建武3年(1336)、京都で合戦に敗れた足利尊氏は、丹波路を通って播州三草より兵庫まで敗走しました。新田義貞軍の兵士に追われ、急遽福海寺の前身である針が崎観音堂の壇下に身を潜めました。辛うじて一命を取りとめた尊氏は、兵庫を出航し九州に向かい、西国の水軍を率いて兵庫の地に再上陸を果たします。そのとき軍船に観世音菩薩名号の帆を張っていました。湊川の合戦では楠木正成に勝利しました。室町幕府を開いた尊氏は、康永3年(1344)一命を取りとめることとなった「針が崎観音堂」への報恩と、彼我戦没者供養、祝国安民祈願の為に、京都正伝寺より在庵圓有(ざいあんえんゆう)禅師を拝請し福海寺を開きました。福海寺は正式には「福海興国禅寺」と言います。



34 平清盛遺愛時雨之松碑／福海寺

神戸市兵庫区西柳原町10-10

- ▶ 平清盛遺愛の時雨の松は神戸市兵庫区三川口町にありました。青葉から玉露を垂らし、霊験あらたかであったといひます。同所に在った兵庫最初の庚申堂と共に清盛の信仰を受けておりましたが、太平洋戦争の火災で枯れてしまい、残っていた切り株も阪神大震災で無くなってしまいました。現在は石碑のみが福海寺にあります。



35 柳原花街跡

神戸市兵庫区西柳原町6あたり

- ▶ 柳原惣門から兵庫に入った街道沿いに柳原花街がありました。多くの志士たちがこの花街に足を運んだと伝わっています。坂本龍馬も足を運んだと伝わっており、そのほか頼山陽、頼三樹三郎、西郷吉之助、大久保一蔵、桂小五郎、高杉晋作、後藤象二郎等々の名が挙げられます。馴染みのあった女性の名が伝わっているのは、桂小五郎とお蔦、坂本龍馬と小吉。特に、桂小五郎とお蔦との間柄が有名です。禁門の変で敗れた後、桂は京都を脱出し、出石に潜伏します。お蔦は、突然姿を消した桂を心配し悲しみました。結局、お蔦は桂との再会が果たせず、早々に敢えない最期を遂げてしまいます。人づてにこのことを聞いた桂は、兵庫に来て、決して柳原には足を運ばなかったといひます。



柳原惣門跡から東方面を見た風景
左側に花街があったと思われる



東側より柳原惣門跡方面を見た風景
右側に花街があったと思われる



桂小五郎

36 後醍醐天皇駐蹕之處／福厳寺

神戸市兵庫区門口町3-4

- ▶ 後醍醐天皇は、元弘2年(1332)、鎌倉幕府打倒を目的とした「元弘の変」の失敗で隠岐島へ流されました。しかし、不屈の精神で元弘3年(1333)、隠岐島を脱出し京へ還幸することになりました。その途中、福厳寺に立ち寄り、楠木正成、赤松円心の出迎えを受け、新田義貞による鎌倉幕府滅亡の報せを受けています。なお、この福厳寺は元は、会下山の麓にあったそうです。



福厳寺

